

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ◆ 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身を持ち、将来、世界の様々な分野で活躍できる素質を育てる学校。
  - ◆ 国際人としてのグローバルな視野を持ちつつ、地域を愛し、地域に積極的に貢献する意欲を持った人材を育成する学校。
- (1) 国際教育及び科学教育等の推進を通して国際間の各種問題に関する教養を身につけさせるとともに、習得した幅広い知識や技能を生かして未来社会をリードする人材を育成する。
- (2) 高い学力や自学自習力の他、自ら課題を見つけ、リサーチ・考察し、その解決法を提案・発信できる力を醸成する。
- (3) 校外の各種団体との連携を図り、地域の教育拠点校として様々な活動に取り組むことを通して地域社会に貢献する。

## 2 中期的目標

## 1. 新しい時代のキャリア教育

第5期科学技術基本計画において我が国が提唱する未来社会 Society 5.0を見据え、人工知能の発達やグローバル化のさらなる進展など、これからの変化の激しい時代を生き抜き活躍するための能力の育成を図る。

※ 目標：国内SGUや海外の大学等が行うAO入試や多面的な評価での入試（総合型選抜）に強い学校を作り上げ、令和5年度には当領域での合格者数30名〔H30:18名、R1:16名、R2:20名〕をめざす。

ア 課題研究等の取組みを通して「自ら課題を見つけ、調査・研究し、分析・考察を行う」能力と「知り得た知識や情報を他の者にうまく伝える」能力の育成を図る。

イ 国内大学のグローバル化、海外の大学への進学ニーズに対応するとともに、AO入試や総合型選抜（課題研究、長期・短期留学論文等）への対応を図る。

ウ 国際教育の充実を図ることを通してグローバルキャリア観を醸成する。

エ 地域での体験的活動や外部機関との連携等を通して、今後の社会形成に積極的に関わろうとする意欲の醸成を図る。

オ 上記活動の拠点として、「Sharebrary（シェアブラリー）」〔R3学校経営推進費によりリニューアルする本校図書館〕を有効活用する。

※ R5目標：地域連携関連会議年間5回以上開催・年間来館者数4,000名以上〔R2:1,720名〕・年間図書貸出数2,000冊以上〔R2:654冊〕

## 2. 確かな学力への取組み

## (1) 「魅力的な授業」「わかる授業」の実現と自学自習習慣の確立

※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」「(項目9)知識技能」の肯定的回答率について毎年85%以上〔H30:81.3%・83.3%、R1:80.2%・82.5%、R2:83.7%・84.9%〕を維持する。

※ 目標：令和5年度には授業外学習時間を週10時間以上行う生徒を35%まで伸ばさせる〔H30:23.3%、R1:26.9%、R2:28.1%〕。

ア あらゆる教育活動を通して主体的・対話的な教育実践を行うとともに、教員自らの学びを推進することで授業の質の向上をめざす。

イ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。

ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。

## (2) 国際理解教育の充実

※ 目標：毎年度CEFR（セファール）B2以上（英検準1級、TOEFL iBT72点など）の取得者10名以上〔H30:6名、R1:5名、R2:10名〕及びB1以上（英検2級・TOEFL iBT42点など）取得者120名以上〔R1:93名、R2:196名〕を維持する。

ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。

イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。

ウ 国際関係学科設置校、WWL連携校及びユネスコスクール加盟校として、姉妹校交流をはじめとする海外の学生や地域の在留外国人との交流を積極的に行い、体験活動を通して国際性に富む人材を育成する。

エ TOEFL、TOEIC、英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。

## (3) 科学教育の充実

※ 目標：科学系コンテストにおいて、年間に3件以上〔H30:1件、R1:3件、R2:0件〕の入賞をめざす。

ア SSH事業の指定校として、その取組みを深め、グローバル社会を牽引する科学的素養を有する人材を育成する。

イ 五感で体得する理科授業をめざして多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。

ウ 高大連携、大学訪問研修等を実施し、高校と大学の科学教育のスムーズな接続を行うとともに、生徒の学習意欲を高める。

## 3. 進路保障

生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、学びの接続を理解し、実現できる生徒を育成する。新しい大学入試制度に柔軟に対応できる進路指導体制の充実を図る。

※ 目標：令和5年度には国公立大学合格者数30名以上〔H30:26名、R1:27名、R2:15名〕、関関同立180名以上〔H30:124名、R1:128名、R2:104名〕をめざす。

ア 進路情報の的確な提供と、きめ細やかな進路選択の指導を行う。

イ 進学補習を計画的に実施し、進路を実現するための学力向上を図るとともに、専門学科の学びを理解させ、家庭等での学習時間の伸長を支援する。

ウ 普段の学び・活動とその定着が、今後の長い人生の進路キャリアに結びつくことを理解させる。

## 4. 開かれた学校づくり

(1) 地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。地元堺市がSDGs未来都市であることを踏まえ、SDGsのNo11「住み続けられる街づくりを」の具現化に取り組む。

ア 地域の小中学生や住民に対しての科学講座や語学教室等を実施し、地域の科学教育、国際教育の中核としての地位の確立をめざす。

イ 堺市社会福祉協議会及び地元自治会、地元企業、NPO法人等との連携を深め、各種イベントや社会貢献活動等への積極的な参加をめざす。

## (2) 学校の特色ある教育活動について幅広く情報発信をすることにより、中学生を含む地域の方々に本校への理解を深めてもらう。

ア 学校説明会の充実を図るとともに、学校HPを含め様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。

## 5. 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり

生徒一人ひとりを大切にするとともに、自主性の向上をめざす。

※ 目標：令和5年度には遅刻総数2000名以下〔H30:2662名、R1:2641名、R2:2681名〕、部活動への入部率85%以上〔H30:83.5%、R1:79.4%、R2:88.8%〕をめざす。

ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織を整備するとともに、きめ細やかな運用を実施する。

イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。

ウ 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する。

エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。

## 6. 教職員の資質向上

## (1) 学校力向上のための職員研修の充実

ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。

イ 職員人権研修を計画的に実施する。

## (2) 教職員の働き方改革

ア スクラップ&ビルドによる業務のスリム化や様々な方策による働きやすい職場環境づくりを進める。

イ ICT機器やアプリケーションを積極的に活用することにより、各種業務の時間短縮を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○項目1「泉北高校での充実感」について、生徒、保護	【第1回（令和3年8月20日（金）／書面送付による意見集約）】

## 府立泉北高等学校

者、教員ともに高い肯定率を維持している。本校の教育活動について全体的に理解を得ていると認識しており、今後も継続できるよう努めたい。

△項目2「授業改善」について、生徒の肯定率が昨年度に引き続き上昇し85%を超えた。教員の授業の工夫改善に向けての様々なチャレンジが生徒に好意的に受け取られていると考えられる。一方で教員の肯定率については若干の下落傾向にあり、新しい学習指導要領と観点別評価の導入に向けて、研究と修養に励みたい。

△項目3「家庭学習促進・宿題」は生徒の回答が平成31年度から2年間で7ポイント以上アップし80%を超え、項目4「講習への参加」は2年間で15ポイント以上アップし60%を超えたが、項目28「週10時間以上の学習」については昨年度より割合が下がっている。引き続き生徒の家庭学習・学力向上への取組みの充実を図りたい。

○項目7「生徒活動活性化」について、生徒の肯定率が数ポイントアップした。コロナ禍の中で工夫して取り組んだことが評価されたと思われる。

●昨年度コロナ禍で十分な時間が確保できず、生徒、保護者とも肯定率が下落した項目9「平和、社会のルール、人権の尊重、生命の大切さなどについて学ぶ機会」について、回復できていない。人権HR等の内容を精査し、次年度の計画を立てたい。

○項目11・12の「進路指導・キャリア教育関連」の生徒の肯定率がそれぞれ5ポイント以上上昇。また、項目27「キャリアパスポートによる振り返り」は昨年度より15ポイント以上上昇している。様々な進路指導が浸透しつつあると認識している。

●項目14・15「地域との交流関連」は生徒、保護者とも肯定率が3～4割に留まり、教員の数値も高くない。新型コロナの影響が大きく、十分な活動ができなかったことが大きな要因としてあげられる。「地域の教育拠点校」として次年度の復活を期したい。

○2年前に生徒の質問に新たに設定した項目23「泉北生であることが誇り」について、肯定率が75.8%→78.5%→81.1%と伸びてきており、大変喜ばしい。引き続き、生徒の自己肯定感を高めることができる教育活動を進めていきたい。

△総体としては、生徒の肯定率は上昇したものの保護者及び教員については下降した。生徒の数値が伸びたことは大変良いことであるが、例えば項目5「教育相談」や6「個人情報管理」、10「災害対応」、13「いじめ対応」等については保護者と教員との認識に乖離が見られる。保護者のニーズに十分に答えられていない部分があることを肝に銘じるとともに、課題であると自己認識する事柄を教員間で共有しながら、今後の教育活動に取り組むたい。

・SSHの取組みは、生徒の学習意欲向上に大いに役立っている。今年6月に「課題研究発表会」が行われ、生徒の努力や先生方のご指導が素晴らしいと感じた。ただし、実験の回数不足、サンプル数の少なさ、失敗に対する改善の対応など日程の関係上十分できていない研究班があったので、今後の取組みでは経験をいかしてご指導をお願いしたい。

・SSH事業計画書について、仮説3.4.が泉北高校が独自に取り組みる視点であるから、その利点を活かして他校との差別化に取り組みられればよいと思う。SSHの報告書は、丁寧にできていて真摯に取り組まれているのがよく分かる。

・SDGsの地域連携活動は社会での役割、自身の成長を学習できる素晴らしい取組みである。引き続き、生徒が自主的に社会貢献できる取組みをお願いしたい。

・英検2級の合格者も増え、準1級+1級合格者で10名を達成され、健闘された。海外留学ができなかった分、英語力のアップに注力されたのが分かる。

・TOEFL、TOEIC、英語検定について、合格者数は知らされるが、受検者数に対する合格者数の割合がわからない。また、学校としての取組み方や、生徒の意欲を高めるための啓発方法が気になる。さらに、大学入試につながるものとして、それらの扱い方にどの程度の差異があるのかも興味深い。

・令和3年度では、1.新しい時代のキャリア教育のエ.オ.において、地域連携に重点、図書館の活用を新たに目標に掲げられていて、地域に根差した教育活動を促進されることには賛意と期待をする。

・令和3年度進路資料について、50期生の進路がほぼ決まっているのが大変素晴らしい。今後さらに希望の進路を実現できるような指導をお願いしたい。また、51期生用に分かりやすく進路実現の指導がなされていて良いと思う。

・大学進学と部活動について、「文武両道」が学校全体のスタンダードになれば一番いいと思うが、実際には非常に困難な課題である。泉北高校はのびのびと部活動をし、入部率も高く、種目によってはとても立派な成績を上げていると聞けが、最後まで部活動を継続できた生徒がどれだけ卒業後の希望進路に進むことができたのかとても気になる。

・卒業生への追跡調査(卒業生の声)について、学校が設定した目標や計画に沿った生徒の学びが、進学先や就職先において活用されている状況をどのような形で現役高校生に還元し、また、教員が今後の修正材料としてどのようなタイミングで生かされているのかに興味がある。

・遅刻者が多いように見える。家庭と学校が連携して、生徒の生活習慣を助けることができるようにお願いしたい。

・生徒の学校生活について、遅刻に対する考え方はおおむね家庭教育の範囲なので、学校は生徒に対して啓発することや保護者に協力を求めることしかできない。遅刻する生徒はおおよそ固定メンバーであり、遅刻せずに学校生活を送っている生徒が圧倒的に多いのが現実である。遅刻数の少ない(できればゼロ)生徒数に光を当ててもらいたい。

・学校経営計画に見る教員の働き方について、年間を通じて生徒が関わる全ての行事に先生方の指導が必要となることを考えると、生徒も先生も極めて忙しい高校ではないかと感じる。教育への情熱なしには語るべきでない内容にただただ頭が下がる思いである。

・昨年から新型コロナウイルスが猛威を奮っている中既に尽力されていると思うが、オンライン授業を素早く実施出来る態勢を強化していただきたい。

・学校経営計画及び学校評価について、令和2年度はコロナ禍が続き、(一)が多いのは仕方ないところである。また、その影響からか(△)が多いのが気になるが、令和3年度での解消に期待する。

・まだまだコロナ禍が続くと思われるが、生徒たちが充実した学校生活を送れるよう願っている。

## 【第2回(令和2年11月26日(金)／本校会議室)】

・大阪府立大学(理系)に入学する生徒が過去にはいたが、最近は少ないように感じる。対策はしているのか。泉北高校の強みを生かした指導をしていただきたい。

・学校経営計画はいつもきめ細かく設定されていてよい。しかしながら生徒がとても忙しいようにも感じる。(大学受験に関して一般入試の時期を指して)最後までがんばることは大切。

・課題研究の発表は生徒の自信につながる。

・泉北高校の立ち位置を死守してほしい。地域連携、SSHは最大の特長。尖っている生徒を伸ばすことでそ野を広げ、モチベーションを波及させることができると思われる。

・共通テストの出願者を増やす工夫を検討していただきたい。生徒に安全志向はあると思われるが、さらに上を目指してほしい。

・子供から親への連絡が少ないので、英検の申し込みが間に合わないことがあった。強制的に何度も受検させてはどうか。その他の連絡についても本人が言ってくれないことが多く困った。

・今年度の行事予定を把握しにくかった。学年だよりが減っているように感じた。授業については特化したものを受けている印象があり非常に良い。地域連携に参加している様子を知って、親として誇らしい。取組みの中で自分の適性を見つけることもできたようで、進路選択にプラスとなった。

## 【第3回(令和3年2月14日(月)／書面送付による意見集約)】

○令和4年度「学校経営計画」についてすべての委員の皆さまより承認を受けた

・本年度の「学校経営計画・学校評価」については、コロナの影響を受けて実施できなかったもの以外はおおむね目標を達成されており、安定した学校運営がなされているように思う。

・「SDGs 未来都市」である堺市の「SDGs 推進プラットフォーム」に加盟し、様々な企業・行政・団体・教育委機関との連携を進めるとされた内容は、地域連携に重きを置き、将来の社会を担う意識を育てる教育として評価される所。探究の授業では、ゼミの活動だけでなくクラブ活動にも繋がっているところが素晴らしい。また、探究活動の結果、進路選択や大学進学にもつながっているのは後進の励みになる。さらなる探究活動の取組みに期待する。

・SSHの取組みは長年の実績があり、特に、泉北高校の国際・科学高校としての特性を活かした「グローバル人材の育成の継続、深化」「地域の科学教育の拠点校として、科学技術人材を育成するシステムの開発」は他校が簡単に取組みえない差別化できる内容で、課題解決の力になり、高く評価する。

・授業アンケートについては、全体像としては8割以上の達成率で問題はない、ただし、個別の改善点は気になる所。

・図書館のリニューアルについて、地域住民などによる利用も想定する場合、本校生徒の学習利用の妨げにはならないように。年間図書貸出数の目標を達成するためには、貸出の見込まれる本(魅力ある本)が配架されている必要がある。

・英検やセファールの結果について、各学年ごとの推移があれば先生方の取組みがよく見える気がする。

・進路保障について、学生が安易に合格しやすい大学を選んでしまい、学力に見合った挑戦(国公立や関関同立への挑戦)をしなくなっているように感じる。

・大学進学について、各大学から与えられている推薦枠や一般入試でどれだけ勝負できているのか気になる。残念ながら社会の評価は結局大学進学率かなと思ってしまう報道ばかり。研究活動は素晴らしいが、充実した取組みをした生徒が第一志望の大学に進学していることを願う。3年間で次の進路に進める生徒を育てていただきたい。

・いじめ重大事態発生件数0件であり、校内の支援体制がしっかりしているものと思われる。ただし、学校教育自己診断(生徒)における「相談体制」の肯定率(60数%)から考えると、3割以上の学生が相談体制を評価しているわけではないとも読み取れる。特に、潜在的ないじめの有無(クラス内の集団無視など)については、常に留意しておく必要がある。

・広報活動について、3年生は時期的な条件で1人1台端末の貸与が無かったことより、3年生の保護者は実感がなく、子どもとの情報共有ができていないと思う保護者がいたように思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>1 新しい時代のキャリア教育</p>	<p>ア 次代に求められる能力の育成</p> <p>イ 進学の高齢性への対応</p> <p>ウ 国際教育の充実によるグローバルキャリア観の醸成</p> <p>エ 地域での体験的活動や外部機関との連携</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SGH事業及びSSH事業で培った知識や技能を踏まえ、課題研究の計画的実施とさらなる充実を図る。</li> <li>課題研究への取組みと進路への導線づくりのため、生徒の3年間の取組みについてキャリアパスポート等を作成し活用する。</li> <li>外部機関との連携事業や社会貢献活動への積極的な参加を促す。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な活動に基づいた統合的取組みを進路実現に結びつける。多面的な評価による入試(総合型選抜)枠での受験とともに、国内SGUへの進学を推奨する。</li> <li>留学や海外進学の説明会を行い、留学や海外の大学への進学推奨を一層進める。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外スタディーツアー(修学旅行)、姉妹校等海外の学校との交流を継続するとともに、国境を越える活動やグローバル企業への訪問、有名大学生とのディスカッション等を行う「プロジェクト型海外研修」を実施する。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Sharebrary(シェアブラリー)を地域連携及び探究活動・課題研究、国際交流の拠点として有効活用する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究発表会の開催</li> <li>外部機関との連携事業参加者100名以上</li> <li>社会貢献活動参加者100名以上</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AO入試や総合型選抜での合格者数20名以上[20名]</li> <li>海外進学者2名以上[1名]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外の学校や在留外国人との交流機会7回以上[0回]</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携関連会議年間3回以上</li> <li>年間来館者数3,000名以上[R2:1,720名]</li> <li>年間図書貸出数1,000冊以上[R2:654冊]</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究発表会を開催(○) 国際文化科2回(10/22・2/9) 総合科学科2回(6/26・11/25)</li> <li>外部機関との連携事業参加者140名(◎)</li> <li>社会貢献活動参加者103名(○) …コロナ禍の中可能な取組みを実施。次年度も引き続き地域連携を学校経営の柱として充実を図る</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な選抜への挑戦が徐々に浸透し、大学の総合型選抜等での合格者数は23名であった。次年度はキャリアパスポート等の活用を図りたい(○)</li> <li>コロナ禍で十分な指導ができず、海外進学者はなかった(ー)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外の学校や在留外国人との交流を、コロナ禍のため、オンラインで3回実施した。次年度は対面による交流を実施可能となった時点で再開する(○)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携関連会議年間0回</li> <li>年間来館者数1182名</li> <li>年間図書貸出数538冊[7月まで] …Sharebraryの工事による図書館閉鎖期間が長く、完成が2月にずれ込んだため、活用できなかった。次年度の本格稼働に期する(△)</li> </ul>
<p>2 自学自習習慣の確立</p>	<p>ア・イ 授業改善</p> <p>ウ 自学自習の習慣確立</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上をめざした研究授業を実施する。</li> <li>授業見学月間(6月、11月)を実施する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自習室の環境向上に努め、利用の推進を図る。</li> <li>個別相談や希望講習の充実にも努めるとともに、スケジュール管理について指導する。</li> <li>卒業生を活用し、学習活動をサポート(多言語学習支援等)する。</li> </ul>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業アンケートの肯定率 「(項目8)興味関心」85%以上[83.7%] 「(項目9)知識技能」85%以上[84.9%]</li> <li>テーマを定めた研究授業の学期毎実施</li> <li>授業見学を行った教員85%以上[66%]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業外学習時間 週10時間以上の割合1年12%・2年15%・3年65%以上[1年11.4%・2年12.7%・3年62.3%]</li> </ul>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用を含めた授業改善が進み、肯定率は興味関心が87.0%、知識技能88.7%となった。引き続き取組みの継続に努めたい(◎)</li> <li>観点別評価をテーマとした研究授業を少なくとも7回実施。(◎)</li> <li>観点別評価に係る研修等を通して100%(54/54)の教員が授業見学を実施。研究授業と併せて継続を図りたい(◎)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業外学習時間 週10時間以上は1年11.1%、2年11.3%、3年59.6%に留まった。勉学に対する意識づけの工夫が必要(△)</li> </ul>
<p>(2) 国際理解教育の充実</p>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル人材の育成</li> <li>SGH事業の継続</li> <li>国際交流の実施</li> <li>英語力の底上げ</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度までのSGH事業において培った、効果的な取組みの継続を図る。</li> <li>プロジェクト型海外研修を実施するなど、海外の学生等との交流の機会を確保する。</li> <li>NETを効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力及び会話力を向上させる。</li> <li>生徒の英語4技能の能力の底上げを図るため、生徒のニーズに合わせた資格検定試験の受験を奨励する。</li> <li>スピーチコンテスト(2学年国際文化科)及びプレゼンテーションコンテスト(1学年全員)を実施する。</li> <li>総合科学科において、「科学英語プレゼンテーション」を開講し、課題研究等において英語での口頭発表やポスター発表を実施する。</li> <li>総合科学科のグローバルコース選抜生は、研究成果を英語で発表できることをめざす。</li> <li>ユネスコスクールとしての活動を継続し、ボランティア活動の一助としてESDパスポートを活用する。</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CEFRB2以上(英検準1級、TOEFL iBT72点等)取得者10名以上[10名]</li> <li>CEFRB1以上(英検2級・TOEFL iBT42点等)取得者120名以上[196名]</li> <li>海外の学校や在留外国人との交流機会7回以上[0回]【再掲】</li> <li>総合科学科課題研究の発表要旨を全グループが英語で作成</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CEFRB2以上取得者3名(△)</li> <li>CEFRB1以上取得者111名(△) …次年度も英検の学校受験を奨励する</li> <li>海外の学校や在留外国人との交流を、コロナ禍のため、オンラインで3回実施した。次年度は対面による交流を実施可能となった時点で再開する(○)【再掲】</li> <li>総合科学科課題研究について発表要旨を全グループが英語で表記し、発表した。(○)</li> </ul>
<p>(3) 科学教育の充実</p>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSH事業の推進</li> <li>グローバル社会を牽引する人材の育成</li> <li>五感で体得する理科授業</li> <li>高大連携</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究の成果と進学実績への結びつきを意識して、国立大学のAO入試や公募推薦での合格をめざす。</li> <li>課題研究を深めて、科学系コンテストや学会での発表件数を増加させ、コンテストでの入賞をめざす。</li> <li>理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。</li> <li>高大連携講座及び大学訪問研修を継続する。</li> <li>海外高校生との合同研究や発表を行う。</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立大学及び高等専門学校の総合型選抜・公募推薦の合格者5名以上[5名]</li> <li>科学系コンテストや学会での発表件数のべ10テーマ以上、入賞3件以上[のべ9テーマ 入賞0件]</li> <li>実験の実施率30%以上[26.3%]</li> <li>高大連携講座及び大学訪問研修の実施</li> <li>海外との合同研究発表の実施</li> </ul>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立大学及び高等専門学校の総合型選抜・公募推薦の合格者3名(△)</li> <li>科学系コンテスト等発表件数8件、入賞1件(SSH生徒研究発表会1件/大阪府学生科学賞1件/日本古生物学会1件(優秀賞)/大阪府生徒研究発表会(サイエンスデイ)第1部2件/同第2部1件/科学の甲子園大阪府大会1件/地学オリンピック予選1件)(△)</li> <li>実験実施率:26.1%(△)</li> <li>高大連携講座(京大・市大・府大・滋賀県立・大阪成蹊・電通)を8月に(参加162名)、大学(府大・近大)訪問研修をZOOMを用いた双方向オンライン講座として12月に(参加118名)実施(○)</li> <li>コロナ禍の中、海外との合同研究はできなかった(ー) …SSH事業の継続とさらなる充実を図っていく</li> </ul>

府立泉北高等学校

<p>3 進路保障</p>	<p>ア・イ ・進路情報の提供 ・補習等の実施</p>	<p>ア・イ ・高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。 ・進路HRで進路選択に関わる情報提供（大学・予備校の講師による進学講話等）を行う。 ・オープンキャンパスへの積極的な参加を奨励する。 ・校内実施の外部模試受験により、学力状況の共有と学習目標設定への活用を図る。（データ分析に基づいた科学的なアプローチによる学力向上を図る。） ・長期休業中の希望講習の充実に努める。</p>	<p>ア・イ ・国公立大学合格者数増 [15名] ・関関同立合格者数 15%増 [104名] ・オープンキャンパスへの2年生全員参加 ・外部模試の校内実施（いわゆる自宅受験を含む）1年2回以上 [4回]、2年2回以上 [4回]、3年4回以上 [7回]</p>	<p>ア・イ ・国公立大学合格者 20名 ・関関同立合格者 158名 (◎) ・コロナ禍の中、オンラインオープンキャンパスを含め9割の2年生（参加可能な全員）が参加 (○) ・外部模試の校内実施は、1年4回、2年5回、3年7回であった (○)</p>
<p>4 (1) 開かれた学校づくり 地域連携</p>	<p>ア 地域の小中学生や住民に対する科学講座、英語教室の実施  イ 堺市等との連携</p>	<p>ア ・小中学生対象の科学講座、語学教室等を定期的、継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。 ・地域住民対象に、自然観察講座や実験講座を開催する。  イ ・地元の福祉施設への訪問や地域活性化のためのイベント運営等、各種ボランティア活動に積極的に参加する。 ・SDGsの目標達成のために自分たちができることを課題研究として実施する。ゴール 11「住み続けられる街づくりを」をテーマの一つに設定し、「私たちが住む堺市を、環境、人権、生き甲斐などにおいて世界に誇れるモデルタウンにする」という目標を持って社会貢献できる取組みを追求する。</p>	<p>ア ・各種小中学生対象講座等への参加児童生徒数合計 300名以上 [239名] ・地域住民対象の講座の実施  イ ・外部機関との連携事業参加者 100名以上【再掲】 ・社会貢献活動参加者 100名以上【再掲】 ・校外での発表等のべ5件以上 [6件]</p>	<p>ア ・泉北子ども科学教室(7月)31名 ・若松台中学校3年対象科学教室(10月)115名 ・泉北子ども科学フェスティバル(12月)162名 …コロナ禍で参加数を制限した。取組みは今後も継続したい (○) ・地域住民対象の講座はコロナ禍のため実施せず (-)  イ ・外部機関との連携事業参加者 140名 (◎)【再掲】 ・社会貢献活動参加者 103名 (○)【再掲】 ・校外での発表7件 (◎) (連携先: 南海電鉄・ビッグバン・堺市政策企画部・堺市社会福祉協議会・高島市商工会・LETS合同発表会・WWL国際会議) …コロナ禍の中可能な取組みを実施。次年度も引き続き地域連携を学校経営の柱として充実に努める【再掲】</p>
<p>(2) 学校広報活動の充実</p>	<p>ア 学校説明会の充実と情報発信</p>	<p>ア ・行事（SSH関連事業含む）報告、校長ブログ、クラブブログ等を学校HPに掲載し、学校の様子をほぼリアルタイムに伝える。 ・メール配信システムを活用し、保護者への学校行事活動の周知を行う。 ・体験授業やクラブ体験など、学校説明会を充実させる。</p>	<p>ア ・学校HPによる報告等 120回以上 [155回] ・メール配信回数 80回以上 [130回] ・校内学校説明会への参加生徒数合計 600名以上 [519名]</p>	<p>ア ・学校HPによる報告等 175回 (◎) ・貸与した1人1台端末による連絡が可能になったため、メール配信回数は27回に留まった。必要な情報提供はできている (○) ・コロナ禍のため校内学校説明会は2回予定のところ10月に1回のみ実施し参加生徒数 450名であった (○)</p>
<p>5 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり</p>	<p>ア 校内の支援組織の整備  イ 部活動の活性化と学習と部活動の両立の促進  ウ 基本的な生活習慣の確立  エ 生徒会活動の活性化</p>	<p>ア ・高校生活支援カードを活用し、情報共有を図るとともに個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制を充実させる。 ・教育相談機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒の状況把握などに組織的に取り組む。 ・いじめアンケートを活用するとともに、いじめ防止対策委員会による検討会議等を実施し、いじめの未然防止に努める。 ・防災訓練（年2回）とともに安全点検（学期終了時）や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。  イ ・中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取組みを実施する。 ・部活動参加者の進路実現に向けて、学習意欲向上に向けた分析と対策を実施するとともに外部模試の自宅受験を活用する。  ウ ・遅刻の実態調査と原因分析を行うことにより遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。  エ ・学校行事やボランティアなどの体験的活動の充実に努めるとともに、生徒の自主的な運営を支援する。</p>	<p>ア ・支援会議及びいじめ防止委員会の隔週開催 ・学校教育自己診断（生徒）における「相談体制」の肯定率 60%以上 [60.8%] ・いじめ発生件数 0件 [1件]  イ ・入部率 85%以上 [88.8%] ・学校教育自己診断（生徒）における「部活動と学習の両立」の肯定率 60%以上 [58.8%]  ウ ・遅刻者数年間 2,000名以下 [2681名]  エ ・「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答 80%以上 [80.9%]</p>	<p>ア ・支援会議隔週開催 (○) ・「相談体制」肯定率 67.3% (◎) ・いじめ発生件数 1件 (△) …支援体制が機能。継続に努める  イ ・入部率 82% (△) ・「部活動と学習の両立」肯定率 57.3% (△) …コロナ禍で活動が制限されたのも要因か。広報等の充実に努める  ウ ・遅刻者数 2330名。一部の者が繰り返す傾向があり、個別に指導する必要がある (△)  エ ・コロナ禍で可能な限り取組みを計画し「生徒の生徒会行事参加」肯定率は 83.6%まで上昇した (◎)</p>
<p>6 (1) 教員の資質向上 の職員研修の充実</p>	<p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ  イ 職員研修の実施</p>	<p>ア ・教職経験3年めまでの教員を対象とした研修を実施し、若手教員の資質向上を図る。  イ ・職員人権研修を計画的に実施し、教員の人権感覚の向上に努める。</p>	<p>ア ・3年め研修の各学期1回以上の実施  イ ・職員人権研修の年2回実施 [1回]</p>	<p>ア ・3年めまでの教員対象の研究授業を実施（1学期2回・2学期4回・3学期3回）し、それぞれの授業力向上に努めた (◎)  イ ・職員人権研修を5月及び11月に実施（テーマ：SNS・同和問題）。時機に即したテーマで継続実施したい (○)</p>
<p>(2) 教員の働き方 改革</p>	<p>ア 業務のスリム化  イ ICT機器等の活用</p>	<p>ア ・提出書類様式の簡素化による事務処理の効率化を図るとともに、各種会議の開催回数・方法を見直し、時間外勤務の削減を図る。  イ ・ICT機器を活用したグループウェアやメールングリストなどによる連絡相談体制を確立し、教職員の負担を軽減する。</p>	<p>ア ・職員会議の50%以上において開催時間45分以内  イ ・グループウェア登録数全教員の90%以上</p>	<p>ア ・職員会議の56%において開催時間45分以内であった。引き続き時間削減に努めたい (○)  イ ・グループウェア登録者が97% (64/66名)となり、メール等を介した連絡が定着した (◎)</p>